

SY5-4

地域で子どもと家族の生活を支える小児訪問看護

山下 郁代

訪問看護ステーションいちばん星

訪問看護ステーションいちばん星は、福岡療育支援センターを母体とし2007年に設立され、通所施設、相談支援事業所を併設しています。訪問看護は、小児の訪問看護としておよそ100名のお子さんの所へ訪問させて頂いています。NICU退院時から訪問を開始するお子さんが多く、ほとんどが未就学児です。家族は、病状、障害に関して受容もできず、生活も療養環境も整わない、不安のなかでの訪問開始になります。最近、人工呼吸器、経管栄養、膀胱ろうなど様々な医療ケアが重複した「医療的ケア児」と呼ばれるお子さんの割合が増えています。しかし、そこを支えていく経験のある在宅支援事業所は少なく、社会資源や活動の場、レスパイト制度も不十分です。

いちばん星は療育支援センターとして、それぞれの部門や多職種と連携して、シームレスな支援をしています。また、およそ11年の訪問経験、療育経験を生かせること、ご家族やさまざまな機関からの情報を集約できる強みがあります。

訪問看護は、在宅で安心して子どもらしく、その家族らしく楽しく暮らすことを支援しています。そのためには、医療的ケアや二次障がい予防などはもちろんですが、今回はこどもの育ちを応援すること、育ちには欠かせない家族の支援に焦点を当ててお話ししたいと思います。

子どもらしい生活を支援するために、訪問看護では、保育を設定し、手遊び歌、絵本の読みきかせ、感触遊び、やり取り遊び、制作活動などの遊びを取り入れ楽しみの中から成長や発達を促しています。また、できるだけたくさんの体験ができるように外出支援をし、交流会などを開きお友達作りのお手伝いをしています。通所施設につなげることも大切な役割です。ご家族からの経験談や口コミ情報は毎月のお便りとして配布し、ママ編集部を立ち上げ投稿や取材、編集会と称しておしゃべり会などを開き社会参加を促しています。昨年のご家族のアンケートをもとにお出かけ情報誌「お出かけマップ」を作成しました。この取り組みの中で、誰もが自分も誰かの役に立ちたいという強い思いを持っている事がわかりました。そこで今年は、この口コミの情報誌を1冊のガイドブックとして集約し発行しております。家族が自ら考え子どもとの生活を楽しめるよう一緒に考え工夫し続けることが私達の役割だと思っています。